

## 2024年度活動概要

## 多文化共生と英語教育研究会

多文化共生と英語教育研究会は英語教育や外国語教育のあり方を現代社会の課題と結び付けつつ、多角的に研究することを意図しています。英語のスキルは勿論のこと、相互の人権を尊重し「多様性と社会的公正」を求める姿勢こそがグローバルコミュニケーションの共通基盤であるべきだという考えに基づき、英語教育と DEI (Diversity, Equity, and Inclusion) の関係をめぐる研究を進めてきています。2024年度は「英語教育における多様性の包摂と無意識の特権」というテーマの下、DEI と英語教育の関係を問う活動を行いました。第 63 回 JACET 国際大会では「多文化共生力を育成する大学英語教育」と題するポスター発表を行い、これまでの研究活動の紹介を行うとともに大学英語教材の分析結果の報告を行いました。

また 2024 年度中部支部第 1 回定例研究会 (12 月) では、本研究会による研究会発表が行われ、「小学校英語教科書におけるジェンダーイメージの分析」(石川有香)と「TOEIC 教材の掲載写真映像における DEI 視点の分析」(吉川寛)を発表し、フロアからの関心も大いに集まりました。前者はコーパス言語学的アプローチを用いて小学校英語教科書のイラストや挿絵に現れているジェンダー・イメージを分析した研究であり、男女の出現数などに平等意識の反映は見られるものの、視覚的表象においては性差ステレオタイプが色濃く現れていることを示しました。後者では TOEIC 教材の掲載写真映像を分析し、教材における多様性への配慮の希薄さ、public な場面では男性の画像を、private な場面では女性の画像をとという選好が見られること、職場での上下関係と人種や性別が無自覚的に紐づけられていると思われる事例などを紹介しました。これらは「学校が隠れたカリキュラムとなって、一定の社会的ステレオタイプやバイアスを再生産する可能性がある」ことへの警鐘ともなる発表でした。2025 年度も引き続き DEI の視点から見た英語教育の在り方について調査研究を進める予定です。